

長期戦略:テーマ 「国際化の推進」

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

構想調書 1(2)①② 独自定量 2、3

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	国際連携機構 (TF 派遣)
-----------------------	---------------	---------------	----------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(6)-① (SGU2-1-1) (SGU2-1-1) 協定校への海外派遣数 2500 人/単位取得を伴う海外派遣 2700 人	2014 年度	2023 年度	必要【必須型】	要
内容				
<p>※本実施計画帳票は今後の海外派遣プログラムを再開していることを前提に計上している。</p> <p>【目的】</p> <p>異文化を理解し、多文化との共生が可能な国際的に通用する人物(世界市民)を多数育成するために、海外協定校への派遣を中心に学生派遣プログラムを拡充し、体系的に整備する。なお、この学生派遣プログラムの拡充・整備は、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)に対応する。</p> <p>【内容】</p> <p>1. 協定大学への学生派遣を大幅に増加させ、2022 年度には日本一に到達しうる 2500 人をめざす。そのために、協定大学数は 2021 年度までに 290(内交換留学協定校 190 校)校以上とし、その後も順次拡大する。また、学部・研究科の学問領域に特化したプログラムの開発を進め、2022 年度の提供プログラムの約 3 割は学部・研究科開講のプログラムとする。具体的には以下のとおり。</p> <p>① 海外協定大学への派遣留学(交換留学、長期留学(学部科目履修型)、ダブルディグリー留学)の参加者数を増やす。そのために、計画的に新規協定校を増加させる。また、交換留学に準じる質の高いプログラムを開発する。</p> <p>② 短期・中期の海外研修プログラム(海外インターンシップを含む)を拡充し、参加者数を増やす。具体的な方策は以下のとおり。</p> <p>➢ クォーター制科目導入の準備が全学的に整い次第、クォーター制を活用した、より留学しやすい期間の海外研修プログラムを開発する。第 2 クォーター(6 月～7 月)に実施する 8 週間程度のクォーター制のプログラムは、1 年生を主な対象とし、交換留学、長期留学(学部科目履修型)、ダブルディグリー留学のための準備プログラムとして活用する。さらに、第 2 クォーターと夏季休暇期間に掛けて派遣する 12 週間以上の中期留学プログラムの開発も検討する。</p> <p>➢ 学生の多様なニーズに応えるため、参加費が安価なプログラムや世界トップレベルの大学でのプログラムを拡充する他、従来の研修プログラムとは異なる特色を持ったプログラム(英語研修+スポーツ実習、ビジネス英語研修、課題解決型研修など)で 1 単位相当の期間の短期集中研修を開発する。また、海外渡航経験が浅い学生等を対象にした留学導入プログラムを開発し、段階的に上位プログラムに挑戦する仕組みを整える。</p> <p>➢ 外国語研修を科目化し、対応可能な学部から外国語必修科目に読み替え可能とする。</p>				

- 従来の授業スケジュールが短縮された場合は、短縮された期間を有効的に活用して派遣できるプログラム開発を行う。
- ③ 協定校と協働で提供するプログラム(国際学生セミナー、Cross-Cultural College、海外フィールドワークなど)の参加者数を増やす。
- ④ 学部・研究科ごとの学問領域に特化した独自プログラム(外国語研修+特色あるフィールドスタディ等)を開発し、順次提供を開始する(例:理系学生のための English for Science and Technology や、学部1年生のためのフィールドワーク型基礎演習など)。また、学部・研究科の教員主導の「海外学習活動」(海外で実施する参加型学習活動を学部教育プログラムとして認定し、単位を付与する科目)の開発推進を支援する。なお、学部・研究科等が協定大学派遣を推進する際の協定締結のアドバイス等の支援をするための態勢を国際連携機構事務部に整える。そのために専任職員1名を新たに増員する。
- ⑤ 全学的に海外留学参加者数を増やすための仕組みを整備する。このための方策は以下のとおり。
 - 留学プログラムの推進においては、留学フェアなどの留学促進イベントの実施に加え、外国語教育科目や一般教養科目の授業等を体系的に提供し、留学へのモチベーションを高められ、かつ留学準備ができる仕組みを整える。
 - 高等部やその他提携校およびグローバル入試で本学への入学が早期に決まっている入学予定者に対し、留学相談会やオリエンテーションを実施し、交換留学やダブルディグリー等の高度なプログラムへの参加希望者を早い段階で囲いこむ。また、高大接続センターと連携を図り、留学に関心のある高校生向けに、留学説明会を実施するほか、SNSを活用した留学プログラムについてのプロモーション強化および情報発信を行う。
 - 留学支援体制の強化および体系的な留学事前事後教育(留学志望者を対象とした英語力向上のための正課外特別講座を含む)を提供するため、学部との適切な役割分担の下、関係部局(各学部事務室、広報室、学生活動支援機構、教務機構、キャリアセンター等)と連携を図り、在学中に留学を行う学生に対して、入口から出口までのサポートを強化する。
 - 交換留学・中期留学等に加えて、短期奨学金制度を新たに設置し、留学プログラムへの参加を奨励する。
 - 渡航に関する業務や留学中の事故・トラブル等の対応に関しては、対応可能な範囲でアウトソーシング化を進め危機管理体制についても全学的に統一を図る。
 - 外国語研修、短期海外インターンシップなど、一部のプログラムでアウトソーシング化を進める。
 - 協定校派遣の大幅な増加に対応しつつ、派遣プログラムと派遣学生の質を担保するために、2019年度より留学の事前・事後教育を含めたグローバルスタディーズ科目(派遣・受入・融合科目)の担当、およびコーディネーター業務も担う SGU 招聘客員教員((SGU)2-2-4「留学生のための日本語教育等の強化」に計上)を1名採用し、2022年度からは専任教員枠に転換する。また、国際教育・協力センターの既存枠である任期制教員Bの1名((SGU)2-2-4「留学生のための日本語教育等の強化」に計上)を派遣・受入・融合の業務拡大に向けて2022年度より採用する。同教員は、ダブルチャレンジ制度の海外派遣プログラムとフュージョン(融合)の目標値達成に向け、本学の課題となっている留学希望者の潜在層や新たな層に対して、母集団形成のための新規プログラム開発を担当するとともに、留学生との融合を視野に入れた留学準備科目、留学後のフォローアップ科目を担当する。
- 2. オンラインによる海外派遣プログラム参加者募集媒体の開発と整備を行う。
- 3. 海外協定大学への派遣2500人を内数として、2023年度には単位取得を伴う海外派遣2700人を目指す。
- 4. インターナショナルプログラムの全学的な危機管理体制整備と危機管理に関する手引きを作成する。
- 5. 2020年度以降文科省が定める新たな定義にも対応する形で、“hybrid/blended”などオンラインで実施する国際教育プログラムの開発と整備を行う。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	1(2)①日本人学生に占める留学経験者の割合	単位取得を伴う海外留学経験者数うち学部(通年) ※過去の経験は除き、本学で単位認定された年度においてのみ計上してください。
指標2		単位取得を伴う海外留学経験者数うち大学院(通年)
指標3		教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数(通年)
指標4	1(2)②大学間協定に基づく交流数	大学間協定に基づく派遣日本人学生数 うち単位取得を伴う学部生数(通年)
指標5		大学間協定に基づく派遣日本人学生数 うち単位取得を伴わない学部生数(通年)
指標6		大学間協定に基づく派遣日本人学生数 うち単位取得を伴う大学院生数(通年)
指標7		大学間協定に基づく派遣日本人学生数 うち単位取得を伴わない大学院生数(通年)
指標8	※独自定量2 海外協定大学との共同開発プログラム日本人学生参加者数	当該年度における海外協定大学との共同開発プログラムへの日本人学生参加者数
指標9	※独自定量3 国連関係プログラム参加者数	当該年度における国連ユースボランティア、国連セミナー、国際社会貢献活動、国連・外交コースインターンシップ等参加学生数
指標10	短期外国語研修・短期海外インターンシップ派遣者数	大学間協定に基づく派遣日本人学生数のうち、短期外国語研修と短期海外インターンシップに参加する学生(通年)
指標11	中期留学・中期海外インターンシップ派遣者数	大学間協定に基づく派遣日本人学生数のうち、中期留学と中期海外インターンシップに参加する学生(通年)
指標12	海外協定大学の増加数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)	包括協定、学生交換協定等を新たに締結した大学数、大学コンソーシアム等の機関数包括協定、学生交換協定等を新たに締結した大学数、大学コンソーシアム等の機関数
指標13	ダブルディグリー、ツイニング・プログラム、大学院派遣留学等の協定締結数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)	ダブルディグリー、ツイニング・プログラム、大学院派遣留学等の協定を締結した数。既存の協定大学との新たに結ぶ場合も含む。
指標14	プログラムの参加者数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)	本学の部局が主催、募集、派遣、あるいは支援する海外派遣プログラムに参加する学生の総数。本学の部局が主催、募集、派遣しないプログラムは算入しない。 なお、日本と相手国で隔年開催のインドネシア交流セミナー、トルコ交流セミナー等については、日本開催であっても計上する(適用の詳細は別紙参照)。

目標1<指標1>1(2)①日本人学生に占める留学経験者の割合 単位取得を伴う海外留学経験者数うち学部(通年)

※過去の経験は除き、本学で単位認定された年度においてのみ計上してください。

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	1240人	—	—	1700人
実績	943人	1070人	1,282人	1,492人	1,867人	1,828人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	2700人		
実績						

目標2 <指標2>1(2)①日本人学生に占める留学経験者の割合 単位取得を伴う海外留学経験者数うち大学院(通年)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	5人	—	—	20人
実績	1人	0人	7人	9人	16人	17人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	20人		
実績						

目標3<指標3>1(2)①日本人学生に占める留学経験者の割合 教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数(通年)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	3人	—	—	5人
実績	0人	0人	3人	6人	8人	5人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	7人		
実績						

<単位取得を伴う海外留学経験者数>

各年度において単位取得を伴う留学をした日本人学生数を御記入ください。

過去の経験は除き、本学で単位認定された年度においてのみ計上してください。

また、単年度に同じ学生が複数回、単位取得を伴う留学を経験した場合であっても、1人として計上してください。

目標4<指標4>1(2)②大学間協定に基づく交流数 大学間協定に基づく派遣日本人学生数 うち単位取得を伴う学部生数(通年)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	1064人	—	—	1530人
実績	856人	961人	1,178人	1,410人	1,750人	1,733人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	2470人		
実績						

目標5<指標5>1(2)②大学間協定に基づく交流数 大学間協定に基づく派遣日本人学生数 うち単位取得を伴わない学部生数(通年)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	20人	—	—	20人
実績	96人	96人	199人	152人	201人	90人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	20人		
実績						

目標6<指標6>1(2)②大学間協定に基づく交流数 大学間協定に基づく派遣日本人学生数 うち単位取得を伴う大学院生数(通年)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	3人	—	—	5人
実績	1人	0人	1人	4人	5人	7人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	5人		
実績						

目標7<指標7>1(2)②大学間協定に基づく交流数 大学間協定に基づく派遣日本人学生数 うち単位取得を伴わない大学院生数(通年)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	3人	—	—	5人
実績	1人	0人	3人	4人	6人	2人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	5人		
実績						

<大学間協定に基づく派遣日本人学生数>

単年度に同じ学生を複数回、派遣・受入した場合は、延べ数で計上してください(複数カウント)。

年度またぎの派遣・受入の場合は、どちらの年度においても人数として計上してください。

また、その場合、「うち単位取得を伴う・・・」には、本学で単位認定された年度においてのみ計上し、その他の留学年度については「うち単位取得を伴わない・・・」に計上してください。

(例：平成25年度から平成26年度にかけて海外留学し、帰国後平成26年度に単位認定された学生の場合)

平成25年度・・・「うち単位取得を伴わない・・・」に計上

平成26年度・・・「うち単位取得を伴う・・・」に計上

目標8 <指標8>※独自定量2 海外協定大学との共同開発プログラム日本人学生参加者数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	248人	—	—	304人
実績	160人	203人	340人	289人	466人	379人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	406人		
実績						

目標9 <指標9>※独自定量3 国連関係プログラム参加者数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	123人	—	—	158人
実績	83人	98人	118人	104人	118人	110人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	190人		
実績						

目標10<指標10>短期外国語研修・短期海外インターンシップ派遣者数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	—	—	—	—
実績	368人	379人	524人	663人	830人	761人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	960人			
実績						

目標11<指標11>中期留学・中期海外インターンシップ派遣者数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	—	—	—	—
実績	196人	212人	269人	293人	298人	253人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	400人			
実績						

目標12<指標12>海外協定大学の増加数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	—	—	+46	
実績	7	10	17	16	27	26
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標						
実績						

目標13<指標13>ダブルディグリー、ツインング・プログラム、大学院派遣留学等の協定締結数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	—	—	+5	
実績	2	1	0	0	1	0
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標						
実績						

目標14<指標14>プログラムの参加者数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	—	—	1320	—
実績	1067人	1216人	1341人	—	—	—
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—	—

2. 実施計画:ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
協定校への 海外派遣数 2500人	策定段階	開発				協定校 210校
	2021年3 月末段階	<p>■協定派遣総人数 955 〈CIEC派遣〉845 交換留学・DD 160 中期留学・インターンシップ^o 210 短期留学・インターンシップ^o 400 国際学生セミナー等 70 国際ボランティア 5 〈学部・研究科派遣〉110 学部固有プログラム 110</p> <p>■協定外(CIEC:70 学部:15) ■協定校 165校</p>	<p>■協定派遣総人数 1060 〈CIEC派遣〉905 交換留学・DD 165 中期留学・インターンシップ^o 220 短期留学・インターンシップ^o 420 国際学生セミナー等 85 国際ボランティア 15 〈学部・研究科派遣〉155 学部固有プログラム***</p> <p>■協定外(CIEC:70 学部:20)</p>	<p>■協定派遣総人数 1110 〈CIEC派遣〉930 交換留学・DD 170 中期留学・インターンシップ^o 220 短期留学・インターンシップ^o 440 国際学生セミナー等 85 国際ボランティア 15 〈学部・研究科派遣〉180 海外学習活動 *** 学部固有プログラム ***</p> <p>■協定外(CIEC:75 学部:30)</p>	<p>■協定派遣総人数 1210 〈CIEC派遣〉970 交換留学・DD 190 中期留学・インターンシップ^o 230 短期留学・インターンシップ^o 450 国際学生セミナー等 85 国際ボランティア 15 〈学部・研究科派遣〉 240 海外学習活動 *** 学部固有プログラム***</p> <p>■協定外(CIEC:80 学部:35)</p>	<p>■協定派遣総人数 1320 〈CIEC派遣〉1000 交換留学・DD 205 中期留学・インターンシップ^o 240 短期留学・インターンシップ^o 460 国際学生セミナー等 85 国際ボランティア 15 〈学部・研究科派遣〉 315 海外学習活動 *** 学部固有プログラム ***</p> <p>■協定外(CIEC:85 学部:40) ■協定校 210校</p>

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階		協定派遣 2000 人 (協定外込み:2170 人)		協定派遣 2500 人 (協定外込み:2700 人)	
	2021年3月 月末段階	■ 協定派遣総人数 1560 <CIEC派遣> 1160 交換留学・DD 220 中期留学・インターンシップ [°] 320 短期留学・インターンシップ [°] 520 国際学生セミナー等 85 国際ボランティア 15 <学部・研究科派遣> 400 海外学習活動 *** 学部固有プログラム *** ■ 協定外(CIEC:90 学部:45)	■ 協定派遣総人数 2000 <CIEC派遣> 1535 交換留学・長期留学・DD 240 中期留学・インターンシップ [°] 340 短期留学・インターンシップ [°] 840 国際学生セミナー等 100 国際ボランティア 15 <学部・研究科派遣> 465 海外学習活動 *** 学部固有プログラム *** ■ 協定外(CIEC:110 学部:50)	■ 協定派遣総人数 2300 <CIEC派遣> 1615 交換留学・長期留学・DD 260 中期留学・インターンシップ [°] 400 短期留学・インターンシップ [°] 840 国際学生セミナー等 100 国際ボランティア 15 <学部・研究科派遣> 685 海外学習活動 *** 学部固有プログラム*** ■ 協定外(CIEC:130 学部:55) ■ 協定校 290 校	■ 協定派遣総人数 2505 <CIEC派遣> 1755 交換留学・長期留学・DD 280 中期留学・インターンシップ [°] 400 短期留学・インターンシップ [°] 960 国際学生セミナー等 100 国際ボランティア 15 <学部・研究科派遣> 750 海外学習活動 *** 学部固有プログラム *** ■ 協定外(CIEC:140 学部:60)	■ 協定派遣総人数 2605 <CIEC派遣> 1855 交換留学・長期留学・DD 300 中期留学・インターンシップ [°] 400 短期留学・インターンシップ [°] 1040 国際学生セミナー等 100 国際ボランティア 15 <学部・研究科派遣> 750 海外学習活動 *** 学部固有プログラム *** ■ 協定外(CIEC:140 学部:60)
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2021年3月 月末段階					

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
短期外国語 研修・短期海 外インターン シップ派遣者 数/プログラ ムの開発	策定段階	■派遣総人数:400 ■1プログラム追加	■派遣総人数:420 ■2プログラム追加	■派遣総人数:440 ■2プログラム追加	■派遣総人数:450 ■2プログラム追加	■派遣総人数:460 ■2プログラム追加
	2021年3 月末段階	■派遣総人数:380 ■外国語研修で1プログラ ム追加(マラヤ大学) (外国語研修) 夏季:7プログラム、196名 春季:10プログラム、184名	■派遣総人数:378 ■外国語研修で2プログラ ム追加(カリフォルニア 大学リバーサイド校、ケン ブリッジ大学) (外国語研修) 夏季:8プログラム、176名 春季:11プログラム、202名	■派遣総人数:524 ■外国語研修で5プログラ ム追加(マッコリー大 学、香港中文大学、エディ ンバラ大学、ダブリンシテ ィ大学、マラヤ大学) (外国語研修) 夏季:11プログラム、203名 春季:13プログラム、321名	■派遣総人数:663 ■外国語研修で5プロ グラム追加(アデレード 大学、クイーンズランド 大学、ニューヨーク州立 大学オルバニー校、カル ガリー大学、ビクトリア大 学) (外国語研修) 夏季:13プログラム、276名 春季:15プログラム、387名	■派遣総人数:805 ■外国語研修で5プロ グラム追加(キール大学、 チェンマイ大学、オタゴ 大学、ペンシルベニア大 学)、短期海外インターン シップで1プログラム追 加(商業大学) (外国語研修) 夏季:15プログラム、374名 春季:18プログラム、413名 (短期海外インターンシップ) 夏季:1プログラム、18名
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	■派遣総人数:520 ■2プログラム追加	■派遣総人数:780 ■3プログラム追加	■派遣総人数:840 ■2プログラム追加	■派遣総人数:960 ■2プログラム追加	■派遣総人数:1040 ■2プログラム追加
	2021年3 月末段階	■派遣総人数:761 ■外国語研修で4プログラ ム追加(チェンマイ大 学、西オーストラリア大 学、ケンブリッジ大学*、 サテャ・ワチャナ・キリス ト教大学)*カレッジ変更 (外国語研修) 夏季:17プログラム、370 367名 春季:19プログラム、420 376名 ※春季はCOVID-19の影響によ り2プログラム(16名)の派遣中止 (短期海外インターンシップ) 夏季:1プログラム、18名	■派遣総人数:200 (見込み) (外国語研修見込み) 夏季:17プログラム、0名 春季:18プログラム、200名 (短期海外インターンシップ) 夏季:1プログラム、0名 ※夏季はCOVID-19の影響により 全プログラムの派遣中止 ※夏季は試行的に協定大学が提 供するオンラインプログラムを13プ ログラム程度実施 ※春季も派遣の見通しが難しいた め昨年度の約半数の200名を見込 みとして記載	■派遣総人数:840 ■2プログラム追加	■派遣総人数:960 ■2プログラム追加	■派遣総人数:1040 ■2プログラム追加

		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2021年3月末段階					

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
中期留学・中期海外インターンシップ派遣者数/プログラムの開発	策定段階	■派遣総人数:210	■派遣総人数:220	■派遣総人数:220	■派遣総人数:230	■派遣総人数:240
	2021年3月末段階	■派遣総人数:196 春学期:4プログラム、77名 秋学期:7プログラム、119名	■派遣総人数:211 ■秋学期に英語中期2校(ゲルフ大学、ネブラスカ大学オマハ校)新規実施 ■中期海外インターンシッププログラムの開発・準備 春学期:4プログラム、86名 秋学期:7プログラム、125名	■派遣総人数:269 ■2015年度新規開講した2大学への派遣を春学期にも拡大 ■中期海外インターンシッププログラム(ニュー・サウス・ウェールズ大学)の導入 春学期:6プログラム、121名 秋学期:8プログラム、148名	■派遣総人数:293 ■春学期に英語中期1校(ケンブリッジ大学)、秋学期2校クイーンズランド大学、マラヤ大学)新規実施 春学期:7プログラム、117名 秋学期:10プログラム、176名	■派遣総人数:300 ■2019年度の派遣者増加に向け、新規4大学(ソノマ州立大学、レスター大学、ワイカト大学、アリカンテ大学)の開発・準備 春学期:7プログラム、114名 秋学期:10プログラム、186名
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	■派遣総人数:320	■派遣総人数:340	■派遣総人数:400	■派遣総人数:400	■派遣総人数:400
	2021年3月末段階	■派遣総人数:253 ■秋学期に英語中期留学3校(ソノマ州立大学、レスター大学、ワイカト大学)、スペイン語中期留学1校(アリカンテ大学)新規実施 ■2020年度の派遣者増加に向け、新規2校(ハワイ大学マノア校、チェンマイ大学)の開発・準備 春学期:8プログラム、92名 秋学期:14プログラム、161名	■派遣総人数:0 ■秋学期に英語中期留学2校(ハワイ大学マノア校、チェンマイ大学)新規実施 ※2020年度はCOVID-19の影響により全プログラムの派遣中止	■派遣総人数:400	■派遣総人数:400	■派遣総人数:400

	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
策定段階					
2021 年 3 月末段階					

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						

経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降
非公開					
人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降
非公開					

4. 進捗状況・得られた成果

2016年度	<p>■1(2)① ※日本人学生に占める留学経験者の割合 派遣ロードマップに定める最終目標値 2,700 名に対し、2016 年度は 1,289 名の参加者(目標値に対し 47.7%)であった。</p> <p>■1(2)② ※大学間協定に基づく交流数 派遣ロードマップに定める最終目標値 2,500 名に対し、2016 年度は 1,381 名の参加者(目標値に対し 55.2%)であった。</p> <p>■※独自定量2 海外協定大学との共同開発プログラム 日本人学生参加者数 派遣ロードマップに定める最終目標値 406 名に対し、2016 年度は 340 名の参加者(目標値に対し 83.7%)であった。</p> <p>■※独自定量3 国連関係プログラム参加者数 派遣ロードマップに定める最終目標値 190 名に対し、2016 年度は 118 名の参加者(目標値に対し 62.1%)であった。</p>
--------	--

2017年度	<p>■1(2)① ※日本人学生に占める留学経験者の割合 派遣ロードマップに定める最終目標値 2,700 名に対し、2017 年度は 1501 名の参加者(目標値に対し 55.8%)であった。</p> <p>■1(2)② ※大学間協定に基づく交流数 派遣ロードマップに定める最終目標値 2,500 名に対し、2017 年度は 1570 名の参加者(目標値に対し 62.8%)であった。</p> <p>■※独自定量2 海外協定大学との共同開発プログラム 日本人学生参加者数 派遣ロードマップに定める最終目標値 406 名に対し、2017 年度は 289 名の参加者(目標値に対し 71.2%)であった。</p> <p>■※独自定量3 国連関係プログラム参加者数 派遣ロードマップに定める最終目標値 190 名に対し、2017 年度は 104 名の参加者(目標値に対し 54.7%)であった。</p>
2018年度	<p>■1(2)① ※日本人学生に占める留学経験者の割合 派遣ロードマップに定める最終目標値 2,700 名に対し、2018 年度は 1883 名の参加者(目標値に対し 69.7%)であった。</p> <p>■1(2)② ※大学間協定に基づく交流数 派遣ロードマップに定める最終目標値 2,500 名に対し、2018 年度は 1962 名の参加者(目標値に対し 78.5%)であった。</p> <p>■※独自定量2 海外協定大学との共同開発プログラム 日本人学生参加者数 派遣ロードマップに定める最終目標値 406 名に対し、2018 年度は 466 名の参加者(目標値に対し 114.8%)であった。</p> <p>■※独自定量3 国連関係プログラム参加者数 派遣ロードマップに定める最終目標値 190 名に対し、2018 年度は 118 名の参加者(目標値に対し 62.1%)であった。</p> <p>■日本学生支援機構が実施する「2018 年度日本人学生留学状況調査」(協定等に基づく日本人学生)において 1,833 名を派遣し、派遣学生数で日本一を達成した(SGU 事業最終年度の 2023 年度より 5 年早く達成)。</p>
2019年度	<p>■1(2)① ※日本人学生に占める留学経験者の割合 派遣ロードマップに定める最終目標値 2,700 名に対し、2019 年度は 1,845 名の参加者(目標値に対し 68.3%)であった。</p> <p>■1(2)② ※大学間協定に基づく交流数 派遣ロードマップに定める最終目標値 2,500 名に対し、2019 年度は 1,832 名の参加者(目標値に対し 73.3%)であった。</p> <p>■※独自定量2 海外協定大学との共同開発プログラム 日本人学生参加者数 派遣ロードマップに定める最終目標値 406 名に対し、2019 年度は 379 名の参加者(目標値に対し 93.3%)であった。</p> <p>■※独自定量3 国連関係プログラム参加者数 派遣ロードマップに定める最終目標値 190 名に対し、2019 年度は 110 名の参加者(目標値に対し 57.9%)であった。</p>
2020年度	

5. 今後の課題及び方向性

2018 年度	<p>2018 年度までに協定校数を 210 校に拡充することを目指し、2018 年度以降、毎年 10 校程度協定校を新規開拓する。さらに、交換留学派遣者数については、2019 年度までに 220 名を達成することを目指し、留学フェアの実施など留学促進に注力するとともに、留学志望者を対象とした英語力向上のための正課外特別講座を含む英語教育プログラムを体系立てて提供し、交換留学派遣者数を増加させるための仕組み・体制を整える。併せて、交換留学に準じる質の高いプログラムを新たに設置する。</p> <p>外国語研修等短期プログラムについては、年に 3~4 件程度新規に開発し、2022 年度時までに合計 20 件程度の開発を目指す。中期留学については 2018 年度に英語中期留学の派遣先(2017 年度に開発した 3 大学を継続して実施)を拡大する。また、クォーター制を活用したプログラムについても、開発準備を行う。</p> <p>さらに、学部固有の留学プログラムについては、各々の学問領域に特化した独自プログラムを開発、提供に向けて準備を進める。国際連携機構は必要に応じて、担当者間の連絡会を開催するほか、協定締結のアドバイス等の支援やプログラム開発・運営にあたって後方支援を行う。</p> <p>全学的な海外留学参加者数を増やすための仕組みの一環として、参加費が安価なプログラムや世界トップレベルの大学での研修プログラム等、学生の多様なニーズに応じた特色あるプログラムの開発を進める。また、高等部およびその他提携校と連携を図り、本学への入学が早期に決まっている生徒に対し、留学のための意識付けオリエンテーションを実施し、留学プログラムへの早期囲いこみを行うほか、高大接続センターと連携を図り、留学に関心のある高校生向けに、留学説明会の開催ほか、SNS を活用した留学プログラムについてのプロモーション強化および情報発信を行う。</p>
2019 年度	<p>2019 年度までに協定校数を 223 校に拡充することを目指し、2019 年度以降、毎年 10 校程度協定校を新規開拓する。さらに、交換留学派遣者数については、2020 年度までに 240 名を達成することを目指し、留学フェアの実施など留学促進に注力するとともに、留学志望者を対象とした英語力向上のための正課外特別講座を含む英語教育プログラムを体系立てて提供し、交換留学派遣者数を増加させるための仕組み・体制を整える。併せて、交換留学に準じる質の高いプログラムとして 2018 年度に開発した長期留学(学部科目履修型)プログラムを 15 名程度派遣できるように拡大する。</p> <p>外国語研修等短期プログラムについては、年に 5 件程度新規に開発し、派遣ロードマップの目標値の前倒しでの達成を目指す。中期留学については 2019 年度に英語中期留学の派遣先を 3 大学拡大し、新たにスペイン語中期留学を開始する。また、クォーター制を活用したプログラムについても、必要に応じて開発準備を行う。</p> <p>さらに、学部固有の留学プログラムについては、各々の学問領域に特化した独自プログラムを開発、提供に向けて準備を進める。国際連携機構は担当者間の連絡会を開催するほか、協定締結のアドバイス等の支援やプログラム開発・運営にあたって後方支援を行う。</p> <p>全学的な海外留学参加者を増やすための仕組みの一環として、参加費が安価なプログラムや世界トップレベルの大学での研修プログラム等、学生の多様なニーズに応じた特色あるプログラムの開発を進める。また、授業スケジュール変更に伴い、ゴールデンウィーク期間中に実施する短期プログラムの開発を進める。</p> <p>高等部およびその他提携校と連携を図り、本学への入学が早期に決まっている生徒に対し、留学のための意識付けオリエンテーションを実施し、留学プログラムへの早期囲い込みを行うほか、高大接続センターと連携を図り、留学に関心のある高校生向けに、留学説明会の開催のほか、SNS を活用した留学プログラムについてのプロモーション強化および情報発信を行う。また、学長室、校友課とも連携し、保証人への留学説明会等も強化する。</p>
2020 年度	<p>2020 年度までに協定校数を 280 校(内交換留学協定校 180 校)に拡充することを目指し、2020 年度以降、毎年 10 校程度協定校を新規開拓する。さらに、交換留学派遣者数については、2021 年度までに 260 名を達成することを目指し、留学フェアの実施など留学促進に注力するとともに、留学志望者を対象とした英語力向上のための正課外特別講座を含む英語教育プログラムを体系立てて提供し、交換留学派遣者数を増加させるための仕組み・体制を整える。併せて、交換留学に準じる質の高いプログラムとして 2019 年度に開発した長期留学(学部科目履修型)プログラムを 20 名程度派遣できるように拡大する。</p> <p>短期プログラムについては、外国語研修の新規開発を行うとともに、2019 年度に設置した海外異文化体験セミナー(海外初級者)の拡充を行い段</p>

	<p>階的に上位プログラムに挑戦する仕組みを整える。また、従来設置されていなかった中上級レベルのプログラム開発を行う等、派遣ロードマップの目標値の前倒しでの達成を目指す。</p> <p>中期留学については 2020 年度に英語中期留学の派遣先を拡大するとともに、英語要件に TOEIC・IELTS を加えることで、新たな学生層の取り組みを行うことで派遣者増加につなげる。</p> <p>学部プログラムについては、各々の学問領域に特化した独自プログラムを開発と継続実施を推進する。国際連携機構は担当者間の情報共有会を開催するほか、協定締結のアドバイス等の支援やプログラム開発・運営にあたって後方支援を行う。</p> <p>全学的な海外留学参加者を増やすための仕組みの一環として、参加費が安価なプログラムや世界トップレベルの大学での研修プログラム等、学生の多様なニーズに応じた特色あるプログラムの開発を進める。</p> <p>高等部およびその他提携校と連携を図り、本学への入学が早期に決まっている生徒に対し、留学のための意識付けオリエンテーションを実施し、留学プログラムへの早期囲い込みを行うほか、高大接続センターと連携を図り、留学に関心のある高校生向けに、留学説明会の開催のほか、SNSを活用した留学プログラムについてのプロモーション強化および情報発信を行う。また、学長室、校友課とも連携し、保証人への留学説明会等も更に強化する。加えて、本学の国際ナショナルプログラムの成果をより広く、また効果的に発信するために、プロモーション動画を作成する。</p>
2021 年度	<p>2021 年度は、海外派遣プログラムの再開を前提として従来の計画を遂行していくが、COVID-19 の影響により引き続き、海外派遣を行えないことも想定されるため、特に、オンラインで実施する国際教育プログラム(COIL 型含む)の開発と整備を重点的に行う。なお、新規開発に際しては文部科学省が新たに設ける定義に準拠するものとする。</p> <p>また、従来実施していた対面での学生・受験生・保証人等への広報が実施できないことを想定し、2020 年度より新たに実施したオンラインによる広報媒体の開発と整備を更に進めていく。</p>
2022 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	<p>旅費(プログラム開発用海外出張)については、当初予算にて計上済。</p> <p>外注費(JTB 委託)については、当初予算との差額分について予算化を承認します。</p> <p>人件費については、<保留>。人事部と未調整のため保留とします。金額は5月以降の11か月分。</p>
2015 年度	<p>旅費、外注費、印刷製本費、新中期計画(後期)からの移管については、申請どおり計画を承認します。</p> <p>※ただし、印刷製本費については 2017 年度以降の GGJ 施策は見直しの可能性あり。</p> <p>人件費(契約職員 1 名、派遣職員 1 名)については、計画の実施を見合わせます。</p>
2016 年度	<p>旅費(引率分)、外注費(JTB 委託)、印刷製本費(パンフレット)については、今年度並みとします。</p> <p>派遣職員 1 名については、人事課が別途対応済みであるため、SGU 予算からは 1 名を計上します。</p> <p>SGU 招聘客員等 3 名については、国際社会貢献等。2018 年度以降は SGU 招聘客員 1 名+JICA2 名 ですが、2017 年度のみ JICA1.5 人+現行任期制 1 名 卒春学期のみとします。</p>
2017 年度	—

2018 年度	<p>外注費(留学 WEB サイト運用経費および印刷製本費(パンフレット))の今年度増額分については、①学部・研究科提供プログラム、②融合(フュージョンプログラム)の広報強化に充当してください。</p> <p>契約職員については、1名の増員を認めます。</p> <p>嘱託職員1名については、人事部で別途対応済みです。</p> <p>SGU 招聘客員教員については担当科目、授業回数、履修者数一覧を別途提出ください。</p> <p>臨時的な措置として任期制教員 C の追加配置をみとめます。(2019~23 年度1代限り。)</p>
2019 年度	<p>留学プロモーション動画については、派遣出願者数(特に中長期プログラム)の伸び悩みの原因を分析し、プログラム設計の見直しを含めた解決策を立案してください。その上で2020年度中に動画の必要性が位置付けられる場合は、予算外申請を認めます。</p> <p>契約職員については、KSC/NSC 担当の留学アドバイザーとして契約職員1名の増員を認めます。</p> <p>嘱託職員1名については、人事課で別途対応済みです。</p> <p>SGU 招聘客員教員については、国際協力教育担当としてSGU招聘客員教授1名、任期制教員人件費1名分(JICAからの出向受入、実際の人数は2名)に加えて、臨時的な措置として任期制教員Cの追加配置を認めています(2019~23年度 1 代限り)。</p>
2020 年度	<p>旅費(引率分)については、2020 年度・2021 年度は、COIL/VE 開発のための業務委託費としても利用できるものとする。ただし、個々案件についてはグローバル化推進本部会議の了解を得るものとします。</p> <p>外注費、JTB 委託については、派遣者数の実績に応じた支払いとなるよう、契約内容について引き続き交渉してください。</p> <p>留学プロモーション動画については、COVID-19 を受けオンラインでの留学フェアなどに取り組んでいることも鑑み、プロモーション動画作成費用として承認します。ただし、留学プログラムの効果を検証のうえ、プログラムの更新(スクラップ&ビルド)も含め、効果的なプロモーションを検討してください。</p> <p>SGU 招聘客員等については、臨時的な措置として認めていた任期制教員 C1名分(国際協力教育担当)の予算について、当該教員の退職により減額して認めます。ただし、海外派遣の再開等、今後の状況により再配置を検討する可能性があります。</p>

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・順調に日本人学生の派遣数を伸ばしてきたが、コロナに伴い、2020 年以降のプログラムが停止している。 ・2021 年度より、VE/COIL 型教育プログラムの開発と整備を行う。 	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・2500/2700 の目標達成に向けたさらなる量的拡大 ・短期留学から中・長期留学への誘導 ・VE/COIL 型教育の推進と環境整備 ・オンラインと渡航を組み合わせたハイブリッド留学プログラムの推進

【フェーズ II (2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	